

The Weekly Journal of Tokyo Rinkai Rotary Club



2019年11月13日【第1158回】



クラブ会長ターゲット
「友情を育み、地域社会に貢献する」
"Foster friendships,
Contribute to the community."
2019-2020年度
東京臨海ロータリークラブ会長
佐藤正樹



国際ロータリーテーマ
「ロータリーは世界をつなぐ」
"ROTARY CONNECTS
THE WORLD"
2019-2020年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

創立：1994年8月8日
会長：佐藤正樹
副会長：高橋映治
幹事：杉浦孝浩
会報委員長：勝間田健一

11月13日の卓話	10月30日の出席率	11月20日の卓話
<p>「ロータリー財団卓話」 国際ロータリー第2580地区 補助金委員会副委員長 東京臨海RC幹事 杉浦孝浩様</p>	<p>会員在籍者数 40名 会員出席者数 25名 会員欠席者数 15名 本日の出席率 65.79% 前々回訂正出席率 82.05%</p>	<p>「経営に活かす仏教の教え 『六波羅蜜の前三 布施・持戒・忍辱』」 榎おぼうさんどっとこむ 代表取締役 林 数馬様</p>

《第1157回例会報告 2019年10月30日》

司会：酒井会員



■点鐘：佐藤正樹会長



■ロータリーソング斉唱「手に手つないで」

：ソングリーダー 櫻田委員

■「四つのテスト」斉唱（歌）

■「ロータリーの目的」

東京臨海RCVer. 唱和：高橋副会長

■来賓・ゲストスピーカー紹介：佐藤正樹会長
地区大会参加促進委員長 安里政晃様（那覇RC）
ゲストスピーカー 篠塚慎之介様（当クラブ会員）

■ビジター紹介：佐藤大輔会員

本日は、いらっしやいませでした。



■ご挨拶：地区大会参加促進委員長 安里政晃様（那覇RC）・・・地区大会のお誘い

こんにちは。本日は、皆様の貴重な例会の時間をいただきましてありがとうございます。

常日頃から、地区の全体委員会にて杉浦幹事様にはお世話になっており、呼びいただきましたので、お邪魔致しました。

既に皆様にはご案内をお配り致しておりますが、来年の2月の12、13日に地区大会を沖縄にて開催致します。

今年は、地区大会に合わせて前日にロータリーデーを開催致します。

また、テーマフォーラムの学びの場も設けさせていただきました。

今回は東京の皆様をおもてなししようということでもやっておりますので、ぜひ、皆様ご参加下さい。

本日は宜しくお願い致します。



■ 会長報告：佐藤正樹会長

・2019年8月の九州北部豪雨災害支援金の募金を10月16日の例会時にお願いし19,320円集まり、全額をガバナー事務所へ送金致しました。ご協力ありがとうございました。

集まった支援金は、第2580地区ガバナー事務所できり纏めた後、第2740地区（長崎・佐賀）へ送金することになります。

・らいおんは一と現状報告を会員皆様へ10月28日に送付致しました。

・11月8日（金）開催の第1回パラボールリーグフェスティバルについて

■ 幹事報告：杉浦幹事

・次週11月6日（水）は、当クラブ例会は休会です。

・地区大会の登録をお願い致します。早期割引の登録締切日は、本日10月30日です。早割登録希望の方は、本日まで事務局長宛、登録料を添えて申込んでください。

・ロータリーの友11月号をメールボックスに配布しました。

・11月29日（金）は、子クラブである東京臨海西RCの創立記念例会にあたりますので、東京臨海RC、東京臨海東RC、東京臨海西RCの3RC合同例会です。出席人数を臨海西RCへ連絡致しますので、出席の有無をお知らせ下さい。例会時間は、12:30～1:30です。

・2019年版手続要覧は、12月出版予定です。購入希望の方は、臨海RC事務局宛、11月13日までにお申込下さい。尚、データ版の手続要覧もあります。

・RI第2580地区ワイン同好会からの連絡です。第7回年末の地区ワイン同好会が、12月3日（火）18:30より、「オルクドール・サロンTOKYO」日本橋高島屋三井ビルディング31階にて開催されます。参加希望の方は、11月20日（水）までに東京臨海RC事務局宛、お申込下さい。会費：12,000円（料理、ワイン代込み）



■ 委員会報告

・職業奉仕委員会（佐藤大輔委員長）

地区職業奉仕セミナーが2020年1月24日（金）16:30より、渋谷区の「アイビーホール」にて開催されます。今回のセミナーでは、職業奉仕に関連して、

「Being Management ～イノベーションなくして事業承継なし～」を題材に渡辺雅司氏（株式会社船橋屋 代表取締役）の講演を頂きます。講演会の後に、懇親会を18:30より行います。参加希望の方は、11月29日（金）までに、東京臨海RC事務局宛、お申込下さい。登録料は、13,000円です。

・オレンジボール担当：酒井会員代読

東京臨海RC旗争奪江戸川区学童オレンジボール大会開会式は、11月10日（日）、水辺のスポーツガーデン内少年野球場で行われます。出席頂ける方は、8時集合としておりますので宜しくお願い致します。臨海RC白ブルゾンとロータリークラブの名刺を持っている方は、各自、持参して下さい。

・ロータリー財団担当（小松委員）

世界ポリオデーの2019年10月24日、WHOは3型の野生型ポリオウイルスが世界で根絶されたことを発表しました。これは、天然痘と2型の野生型ポリオウイルスの根絶に続く人類の歴史的偉業であり、ポリオ常在国やハイリスク国でのワクチン投与活動、そして日本を含む他の国々での募金活動に尽力する方々のおかげです。

野生型ポリオウイルスは抗原性の異なる1型、2型、3型の3種類がありました。2型は2015年に根絶されており、3型は今回、根絶の発表がありました。今年（2019年1月1日～2019年10月22日）の野生型ポリオウイルスによる発症数は94件（パキスタン76件・アフガニスタン18件）で、全て1型のウイルスによる発症です。

野生型ポリオウイルスの常在国は、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3カ国ですが、ナイジェリアからは2016年8月21日を最後に3年間発症がありませんのでナイジェリアおよびアフリカは、ポリオ根絶の宣言がされる見込みです。



■ 出席状況報告：地引委員

⇒詳細1頁バナー下に掲載。

■ ニコニコBOX報告：白幡会員

（ご意向）安里様、地区大会のご案内において頂きありがとうございます。宜しくお願い致します。：佐藤正樹会長、高橋副会長、杉浦幹事、井上会員、須藤会員、勝間田会員、村社会員、斉藤会員、柴田会員、中村会員、田村会員、田中会員、入澤会員、小松会員、白幡会員、榎本会員、酒井会員、尾身会員

（ご意向）本日は、卓話をさせて頂きます。宜しくお願い致します。：篠塚慎之介会員

（ご意向）篠塚慎之介さん、卓話楽しみにしています。：山田会員

【20件 43,000円 今年度累計 776,000円】



■卓話（紹介者：プログラム担当 山田委員）



「ライフプランナーという仕事」
ライフプランナー 篠塚慎之介様（当クラブ会員）

生命保険会社の中でも数社が営業職のことをライフプランナーという呼称でよんでおりますが、そもそも、ライフプランナーとはどのような仕事をしているかをお話させていただきます。

この職が出来たきっかけは、ちょうど40年前の1979年にまで遡りますが、電器のソニー創業者の1人であり、盛田昭夫さんが、アメリカのプルデンシャルを知った時に、ソニーにも金融部門をいつか持つという目標を掲げたことからでした。

当時は、電器会社が金融会社を作ることが難しかったので、プルデンシャルと合弁会社という形でのスタートでして、社名もソニープルデンシャル生命という名前でした。

営業開始は1981年でありました。当時の新聞広告に、「今日から生命保険が変わる、ライフプランナーが変える。」と掲載したそうです。では、ライフプランナーが生命保険の何をどのように変えるのかということですが、今では当たり前になりつつある、コンサルティングをして、金額を根拠あるものにして保険を販売するというものでした。当時は、義理、人情、プレゼント攻撃といった営業手法が当たり前

でしたが、そこには本来生命保険が持つ機能を十分に発揮することが出来ない募集品質がありました。

実際に、当時の統計をみると、世帯主の平均保険金契約金額が3000万円なのに対して、平均受取保険金は290万円といった実態がありました。

これに目を付けたソニーの盛田昭夫さんは、既に熟成業界であるので今更の参入は無謀だと言われる中でも、無限のマーケットがあると確信しての参入だったと聞いております。

実際に、この40年での業績も常に右肩上がりできておりますので、いかに今までの生命保険販売が杜撰であったかがわかります。

保険のコンサルティングというのはどういうことかと申し上げますと、一人一人が収入も違えば、金銭感覚も違うのにもかかわらず、これまでの生命保険は保険会社が作ったパッケージ商品にとりあえず加入するというものであったのに対して、万一時に、何のためにお金が必要かという目的それぞれに応じて保険金額の設定をしていくというものでした。

また、貯蓄型保険についても正しい知識でユーザーの目的ごとに最も適したプランを提案していくようにしました。そして、加入してから、数十年先になることが多い納品まで徹底したアフターフォローをすることにより、ユーザーからの信頼を得て、本当に困った時の相談者としての立場を確立しようとしていくのがライフプランナーなのです。

ソニー生命には、ライフプランナー憲章というものがございます。ライフプランナーは、常に、保険とその周辺知識、仕事に臨む姿勢、分かりやすくお伝えする技術、信頼を得られるような日頃の習慣形成を常に研鑽していき、社会からの厚い信頼と高い評価を獲得し、職業の社会的地位を高めようとするものであります。

この精神に則りまして、私も最低75歳までは前を見据えて走り続けていこうと思っておりますので、これからも引き続き、ご指導、ご鞭撻の程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

本日は、ご清聴、誠にありがとうございました。

■点鐘：佐藤正樹会長

会員インタビュー

貴方の会社、もしくは貴方の仕事の「目的・目標」を、各46文字以内で教えて下さい。

入澤 昭彦 会員

事務所の「目的」

法律事務の専門家として国民の権利を守り、もって自由・公正な社会の形成に寄与する

事務所の「目標」

依頼者の立場に立って常に考え、困難な事件であっても誠実に職務を遂行する

ご協力、有難う御座いました。

カルロス寺岡氏来日

カルロス寺岡さんは10月28日から31日まで訪日され、フィリピン残留日本人訪問団の代表の一人として、日本政府に日比友好議員連盟（石原伸晃会長）らと面会し請願書を手渡した。

10月31日最後の日にバギオ基金の事務所にもお越しただいて、その後、前川相談役の手配で帝国ホテル天一で食事会を開いた。同行した、アーネルさん（BaguioRC）、ジェイさん（寺岡さんの孫）また酒井常任理事、横山評議員と7人でお話をしました。

昭和から平成、そして令和へと時代が変わっても、忘れてはいけない事、父や祖父から聞いた事実は我々が次の人達に伝えていく義務があるのではないのでしょうか。

東京臨海 RC 元会長 齊藤 実

(2019年11月1日朝日新聞(夕刊))



「日本国籍を」最後の訴え

比残留2世 来日の88歳

無国籍状態にある約1千人のフィリピン残留日本人の2世の日本国籍の確保を求めて来日した代表団が帰国の途についた。リーダーとして四半世紀、活動の先頭に立つてきた寺岡カルロスさんの88歳は、パーキンソン病を患い、今度が最後の機会と覚悟を決めていた。「私どものことを助けてください」と訴えた。

10月30日夜、都内で開かれたシンポジウムで、寺岡さんは「戦争に負け、豊かだった日本人社会はどんな底に突き落とされた」と話し、

「戦争は絶対にやるもんじやない」とつぶやいた。寺岡さんの父、宗雄さんは戦前、山口県からフィリ

ピンに渡り、建築業で成功。運転手付きの車に乗った。家には10人ものメイドがいた。フィリピン人の母との間に三男の寺岡さんを含む5人の子どもがいた。ところが1941年に父が精進で死に、日本軍がフィリピンに侵襲すると、生活は一変した。2人の兄は通訳として日本軍に協力したが、長兄はスパイ容疑で憲兵隊に連行され、二度と戻ってこなかった。次兄はゲリラに殺された。戦争が激しさを増した同年4月、米軍の激しい砲撃を帯びて母は困窮、妹と弟も亡くなり、14歳の寺岡さんと11歳の妹だけが生き残った。

敗戦後は米軍の捕虜に。妹と日本への強制送還を選んだ。だが、父の戸籍に2人の名はなく、無国籍だった。身を寄せた祖父が事故死したこともあり、21歳の時にフィリピン国籍を取得し、フィリピンに戻った。

反日感情が強まるなか、懸命に働いた。材木の仕事で成功。88年には出生届を出し、父の戸籍に記載された。自身が日本人と認められた後も声を上げ続けたのは、「苦労してきた同胞を置き去りにしてはできない」との思いからだ。

「父親の戸籍が見つからなくても、証言や資料で父が日本人と判断できれば、日本人と認めてほしい。このままでは捨てられた日本人になってしまう」

（編集委員・木下俊真氏）

会長だより

佐藤 正樹 会長

2019年11月1日(金) 11:00



鈴木クラブ奉仕委員長が個人的に継続している青少年の翼事業への寄付（寄付累計 1億6,000万円）にあたり、斉藤江戸川区長への表敬訪問に同席してきました。

鈴木委員長の江戸川区を中心とする社会貢献に対する意識、姿勢、行動力を改めて実感しました。

私も出来る社会貢献を継続していきます。

☆今回 2,000 万円寄付

- ・ 青少年の翼事業 1,000 万円
- ・ 東京パラリンピック出場の貧困国チュニジアに 1,000 万円

☆京葉鈴木グループとして

台風の影響で壊滅的な影響を受けている江戸川区河川敷の少年野球チーム緑地グラウンド 12ヶ所の路盤工事を 11月～12月 にかけて、無償実施予定とのこと。（実費負担予算 500万円）